

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|----------|---------|
| 幼稚園・学校番号 | 2011417 |
| 施設名（園名等） | 小平神明幼稚園 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身体

<テーマの設定理由>

・幼稚園教育要領の5領域「健康」において、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」という内容がある。また、「ねらい」においては「(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する」とある。上記のことからもわかるように、子どもの心身の健康な育ちを支える観点からも「身体」の重要である。

特に教育要領における、「内容」において「(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。(3) 進んで戸外で遊ぶ。(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。」の上記3点は子どもの遊びと活動をつなげ、探究的な活動へと展開していくことと親和性が高いことが考えられる。上記理由から、本テーマの設定に至った。

2. 活動スケジュール

毎週、各クラス30分の体操の時間を経験し、その中で得た経験を活かし、遊びや活動に往還的に還元することを1年間通して取り組んでいく。

4月・心地よい身体の使い方。様々な身体の使い方を知る

6月以降・技術的な内容の教示

9月頃・各学年のテーマの設定

10月頃・運動会に向けた活動

11月・モノとの出会い（新たな道具の使い方）

12月・自分の身体の使い方の探求と目標の設定・達成

1月～3月・クラスで楽しんできたことの振り返り、見える化

3. 探究活動の実践

- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【年少】

・様々な身体の使い方から動物になってみるなど、ごっこ遊びへの展開を期待し、お面等を設定

【年中】

・忍者修行というテーマを設定し、忍者から日々届く手紙や、修行の為の設定（雲梯やマット運動、忍者のバッチなど）

【年長】

・クラスで一つの目的に向かう為のリレーのバトンやドッチボールのボール等

活動中の子どもの姿、声、子ども同士や教諭との関わり等

【年少】

・体操の時間に動物に変身し、マットを移動するなど多様な動きを教えてもらってきました。クラスでも、「変身ゲーム」をしていました。担任が「ゴリラ！」というと、T君が「ゴリラはね、少し歩いて、少しウホウホたたいて、また歩いて・・・って動くんだよ。ウホウホ（胸を叩くのは、グーじゃなくてパーね）」と実践をしながら教えてくれました。するとクラスの子どもたちも見よう見まねでゴリラになり、その動物らしさがクラスに広がっていきました。

【年中】

・ある日、忍者から手紙が届きました。「修行を頑張ったものを、スーパーゴールド忍者にしてあげよう」こんな手紙をきっかけに、日々園庭に現れる修行場で多様な体の動きを「目的」に向かって取り組んでいきます。

最初は保育者の投げかけや仕掛けによって楽しんでいた子ども達でしたが、子どもたちの方から「あっちでスーパーゴールド忍者がいた！」と、保育者の投げかけ以上のイメージが表出されていき、様々な日常の出来事を「忍者」とむずびつけて生活を弾ませていく様子がありました。

【年長】

年長組は、リレーに取り組みました。

リレーが終わったあとに、率直に「今日のリレーどうだった?」と聞いてみました。すると「楽しかった!」「もう一回やりたい!」とリレーを楽しむ声が出てきました。その中で「一生懸命走ったけど、3位で悔しかった」「1位になりたかった」「もう一回やって勝ちたい」と悔しさを出した上で、次はこうしたい!と前向きな意見がどんどん出てきました。やはり勝負事となると、負けたらもうやりたくない後ろ向きな気持ちになることも多いと思いますが、にじ組の子どもたちは「もっと練習して勝とう!」と、リレーが終わってすぐに、悔しい気持ちを力に変えている様子がありました。その思いに担任もぐっとくるものがあり、子どもたちの思いを全力でサポート出来るようにクラス全員で協力し合いながらやっていければと思いました。

「1位を目指すにはどんなことをしたら良いのか?」という質問をしてみると、
・もっと練習する
・バトンを落とさずに次の人に渡す
・バトンを待つときの構えの練習をする
・順番を変えるなど出来ることも考え、「どうやったら勝てるか、お母さんに聞いてみる!」と家族に聞いてみるといった子もいました。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【年少】

・遊びの時間は、子ども達が跳ぶ、歩く、走る、止まる等多様な動きをしているが、保育者が新たな視点やテーマ、多様な動きへのキッカケを提案することで子どもたちの身体の動きはより多様になり、子ども達からも「こうしたらもっと〇〇らしくみえるよ」と新たな視点も子ども達から生み出される姿がみられた。

【年中】

・年中組は、対話能力や、他者理解、自分理解が進む一方で、わかることが増えてきたからこそ、集団の中で自分を表現することが億劫になる子の姿も増える時期である。「忍者」という虚構の世界をテーマにすることで、「正解」「不正解」という事ではなく、自分たちの発見やイメージしたことをキッカケに、面白さの追求をしていくことができ、様々な子が「忍者」というテーマをきっかけに、自分の「身体」を使うことをたっぷり楽しむことができた。

【年長】

・年長組は「身体」活動をきっかけに「仲間との対話」に重点を置いて活動に取り組んできた。リレーをすることで「どうやったらもっと早く走れるか」が共通の問題として共有され、他者の良さに気がついたり、話し合ったことを次の日に取り組むことでよりよくなっていく実感を持ったりと、保育者から一方的に教えられるよりも、探究的に取り組むことが生活全般を向上させていくことを子どもたち自身が実感している姿があった。